

Japan Association of Religion and Ethics

宗教倫理学会ニュースレター

No.2 (2001.8.29)

<< 目 次 >>

第2回学術大会のご案内	1
メッセージ・ボード	2
事務局より	3
宗教倫理学会活動報告	3
新入会員紹介	6
会員の業績紹介	7

宗教倫理学会事務局

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学神学部 小原研究室

Tel: 075-251-3343, Fax: 075-251-3088

Homepage: <http://www.kohara.ac/jare>

E-mail: katsuhiko@kohara.ac

郵便振替 00930-4-38499

第2回学術大会のご案内

大会テーマ：エコロジーと宗教

日 時：2001年11月11日（日）午前8時半受付開始、9時開会

会 場：キャンパスプラザ京都（京都市下京区西洞院通塩小路下る）

参加費：正会員 2,000 円、学生会員 1,000 円、一般参加 1,000 円

懇親会費：3,000 円（以上は振替用紙にて払い込んでください）

記念写真：500 円（当日、受付にて申し込み）

すでにニュースレターNo.1にて、また7月には郵便にて、ご案内致しましたように、11月11日（日）に第2回学術大会を開催いたします。その概要をここにお知らせいたしますので、会員の皆さん、ふるってご参加下さい。午前の研究発表にも積極的に申し込み下さい。

第2回学術大会実行委員長 佐々木恵精

【プログラム概要】

※詳細のプログラムなどのご案内は、10月初旬に発送予定です。

9:00～11:00 個人発表・ワークショップ形式発表
個人は、20分発表・10分質疑。ワークショップ形式は全体で60分。

11:10～12:00 学会総会
総会に続いて記念写真撮影。

〈 昼 食 ・ 休 憩 〉

13:30～14:00 宗教のしらべ
宗教音楽が人間にとってどのような意味を持つか、人のこころに何を訴えるか、など、「宗教のしらべ」を味わう時間とする。今回は、天理教関係の音楽（團伊玖磨作曲）の予定。

14:00～15:15 特別講演

講師 加藤尚武氏 (鳥取環境大学学長)

講演題 「環境と宗教は関係があるのか」

15:30～17:00 公開討論会「エコロジーと宗教」

研究プロジェクト (数回の研究会) の成果を公開し、一般に問い掛けるものとし、公開討論の場を持つ。

17:30～20:00 懇親会

【参加申込のお願い】

午前の研究発表 (個人発表およびワークショップ形式の発表) に、数件のお申込みが届いています。さらに奮ってご応募いただくとともに、多くの会員のご参加をお待ちしています。なお、午後の部は一般公開としていますので、多くの方々をお誘いいただくよう、お願い致します。

参加および発表の申込みは、

- ① 実行委員会宛に電子メール (アドレスは sasaki@kyoto-wu.ac.jp) で必要事項 (発表の有無・発表題・懇親会参加の有無) を送信する (発表申込みには、800～1000 字の要旨を添付ファイルで送ってください)。あるいは、
- ② お送りしたハガキに必要事項をご記入の上ご返送ください (発表申込みには、800～1000 字の要旨をファックスまたは郵送で送ってください)。

同時に、参加費等を振替用紙にて払い込んでください (一般参加は当日受付)。

8月31日を締め切り (消印有効) としていますので、早急にお申し込み下さい。なお、研究発表の可否については、評議会で決定されます。最終の確定したプログラムは、10月初旬にご案内します。

【申込み先】 JARE 第2回学術大会実行委員会事務局
〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35

京都女子大学 宗教・文化研究所内

TEL 075-531-7074; Fax 075-531-7215

E-mail: sasaki@kyoto-wu.ac.jp

参加費等は振替用紙にて: 00940-9 133581 までお支払いを。

メッセージ・ボード

研究プロジェクトの報告

研究プロジェクト委員長の澤井義次氏 (天理大学) の司会のもと、研究プロジェクト「エコロジーと宗教」の研究会が下記のように開催され、活発な討議がなされました (場所はいずれもキャンパスプラザ京都)。今後の研究会にぜひ積極的にご参加ください。

第1回研究会 (6月28日)

研究発表: 徳永道雄氏 (京都女子大学)

「自然 (しぜん) と自然 (じねん)」

コメント: 小原克博氏 (同志社大学)

第2回研究会 (7月26日)

研究発表: シュペネマン・クラウス氏 (同志社大学)

「西洋における自然概念—その歴史と諸問題」

コメント: 宮下晴輝氏 (大谷大学)

第3回研究会 (8月9日)

研究発表: 三宅善信氏 (金光教泉尾教会執行)

「『天地の間』という自然観: 遺体から遺伝子まで」

コメント: 花岡永子氏 (大阪府立大学)

以下は今後の予定です。

第4回研究会

日時: 2001年9月27日 (木) 18:00～20:00

場所: キャンパスプラザ京都 2階 第2会議室

司会: 澤井義次 (天理大学)

内容:

18:00～19:00 研究発表

佐藤孝則氏 (天理大学おやさと研究所)

「自然と人間のつながり—環境問題の現状」

19:00～19:15 コメント

野村伸夫氏 (京都女子大学)

19:15～20:00 全体討議

第5回研究会

日時：2001年11月1日（木）18:00～20:00
場所：キャンパスプラザ京都 2階 第2会議室
司会：澤井義次（天理大学）
内容：

- 18:00～19:00 研究発表
芦名定道氏（京都大学文学部）
「宗教的自然観の多様性からエコロジーへ」
19:00～19:15 コメント
佐々木恵精氏（京都女子大学）
19:15～20:00 全体討議

事務局より

会費納入のお願い

会費の納入がお済みでない方がおられます。お心当たりの方は、ご面倒をおかけしますが、できるだけ早く納入して下さるよう、よろしくお願ひします。会費に関してご不明な点（たとえば、（納入済みかどうか）があれば、事務局（会計担当・高田信良氏、E-mail: takada@biz.ryukoku.ac.jp）までお問い合わせください。

訂正とお詫び

ニュースレターNo.1の2ページ「新設委員会の紹介」において、編集委員会委員に内藤知康氏があげられておりましたが、同氏は委員ではありません。事務局の確認不足でした。訂正し、お詫びいたします。

会 員 の 業 績 紹 介

2000年12月～2001年8月の業績紹介です（氏名あいうえお順）。引き続き、ご投稿をお待ちしています。投稿は「業績紹介」担当者の鍋島直樹氏（nabe@law.ryukoku.ac.jp）まで。

[著書]

金子昭『世紀を見抜く—未来へ向けての豊穰なる対話—山折哲雄×加藤尚武』萌書房、2000年12月。
小原克博（共著）小倉島襄二他編『EU世界を読む』世界思想社、2001年1月。
頼富本宏（共著）『四国遍路の研究』（日文研叢書23）国際日本文化研究センター、2001年3月。

[論文]

石川明人「ティリッヒの宗教芸術論と「意味の形而上学」」『宗教研究』第75巻、第1輯、328、2001年6月、75-97頁。
金子昭「天理教の災害救援の理念と史的展開」『天理教社会福祉』第10号、2001年4月、43-62頁。
金子昭「便利さの功罪—情報倫理の視点から」『インターネット新時代—布教活動のあり方を探る—』天理やまと文化会議、2001年6月、41-50頁。
Akira Kaneko, 'What Can Japanese Religion Offer the New Century?', "Echoes of Peace No. 61", The Niwano Peace Foundation, July 2001, pp.7-9.
寺尾寿芳「文化と霊性—現代カトリック教会宣教論の分水嶺」『宗教研究』326号、2000年12月、119-141頁。
寺尾寿芳「現代カトリック教会宣教論の霊性倫理的展望—死者が遍在する状況から」『信愛紀要』41号、2001年3月、31-41頁。
Naoki Nabeshima, "A Shin Buddhist Perspective on Human Cloning: Bioethics of Interdependence" 『龍谷大学論集』457号、2001年1月、pp.2-14.
鍋島直樹「縁起のバイオエシックス—人クローン

に関する浄土真宗からの一考察』『真宗学』103号、2001年1月、32-58頁。

鍋島直樹・矢田了章他共著 龍谷大学善本叢書『三帖和讃』同朋舎出版、2001年5月。

頼富本宏「聖なるものの表現」『アジア遊学』第23号、2001年1月。

頼富本宏「金剛界曼陀羅の不動明王」『平安仏教学会年報』第1号、2001年3月。

頼富本宏「江戸時代制作両界曼陀羅図の図像的研究」『鹿島美術財団助成研究報告書』2001年5月。

頼富本宏「華開く真言密教」『国文学解釈と鑑賞』第66巻5号、2001年5月。

【新聞記事】

小原克博「21世紀の『生命の尊厳』」『週刊仏教タイムス』2001年1月1日。

小原克博「『クローン人間』 誕生前夜」『産経新聞』夕刊、2001年3月13日。

小原克博「『終わり』なき社会の終末論」『産経新聞』夕刊、2001年3月14日。

小原克博「宗教教育は必要なのか」『産経新聞』夕刊、2001年3月15日。

小原克博「遺伝管理社会にひそむ影」(提言・オピニオン解説)『京都新聞』朝刊、2001年5月29日。

澤井義次「『無宗教』ではない日本人」『朝日新聞』夕刊、2001年2月16日。

寺尾寿芳「ポール・L・スワンソン、林淳編『異文化から見た日本宗教の世界』」(書評)『カトリック新聞』3605号、2001年2月4日。

頼富本宏「自然より怖い人間」『京都新聞』夕刊、2001年7月5日。

【雑誌】

小原克博「同性愛、中絶、不倫——米キリスト教会と『多様な性』」『論座』(朝日新聞社)2001年6月号、182-185頁。

寺尾寿芳「日本人の心のために——ゆるしの秘跡と癒し」『福音宣教』55巻3号、2001年3月、18-27頁。

鍋島直樹、単著『死別の悲しみと生きる——ビハラの心を求めて』本願寺出版社、2001年7月、1-31頁。

頼富本宏「密教儀礼の構造と意義」『真宗文化』第10号、2001年7月。

【その他】

小原克博、対談(栗林輝夫・小原克博)「現代神学の課題と挑戦」『基督教研究』第62巻第2号、2001年3月。

小原克博、学会情報「『宗教倫理学会』設立について」『アレティア——聖書から説教へ』No. 34、日本基督教団出版局、2001年9月、34-35頁。

寺尾寿芳「日本キリスト教関係文献」『南山宗教文化研究所 研究所報告』11号、2001年6月、14-45頁。

【翻訳】

寺尾寿芳訳、クラーク・チルソン「潜伏する仏教集団——真宗秘密講はなぜいまだに隠れつづけるのか」『南山宗教文化研究所 研究所報』11号、2001年6月、3-13頁。

※今号は都合により「エッセイ」のコーナーを休ませていただきました。

宗教倫理学会 (Japan Association of Religion and Ethics)

評議員：瓜生津隆真(会長)、シュペネマン・クラウス(副会長)、花岡永子、神田健次、小原克博、宮下晴輝、鍋島直樹、中村信博、小田淑子、澤井義次、高田信良、徳永道雄、和田幹男、頼富本宏

事務局：小原克博(事務局長)、高田信良(会計)、鍋島直樹、中村信博